諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

SUWA

諏訪の景気動向

2025
5月

（2025年4月末D・I調査）

製造業 p2
米高関税政策警戒の動き出始め

商業 p4
年度替わりで来店客数など増加

観光・サービス業 p5
物価高影響などで宿泊客数前年比減少

建設業 p6
受注状況やや改善

今月のコラム
景気後退の米経済と関税交渉の行方

▲本誌の電子版はこちらから

霧ヶ峰 レンゲツツジ

CONTENTS

概況……1
製造業……2
製造業 受注状況……3
商業……4
観光・サービス業……5
建設業……6
収益性状況……7
雇用状況……8
経営上の課題……8
諏訪地方主要経済指標……8
2025年4月の状況
●自社の業況……9
●諏訪地方の景況感……9
●資金繰り……10
●収益性……10
●米高関税政策の影響……11
●労働力（パート含む）……11
回答全社：業況判断DIの推移……12
調査概要……12
コラム「景気後退の米経済と関税交渉の行方」……13

お天気マーク（調査月から見た状況）

3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。

回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。

3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様で横這いの時。

回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。

3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横這いの時。

概況

2025年4月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

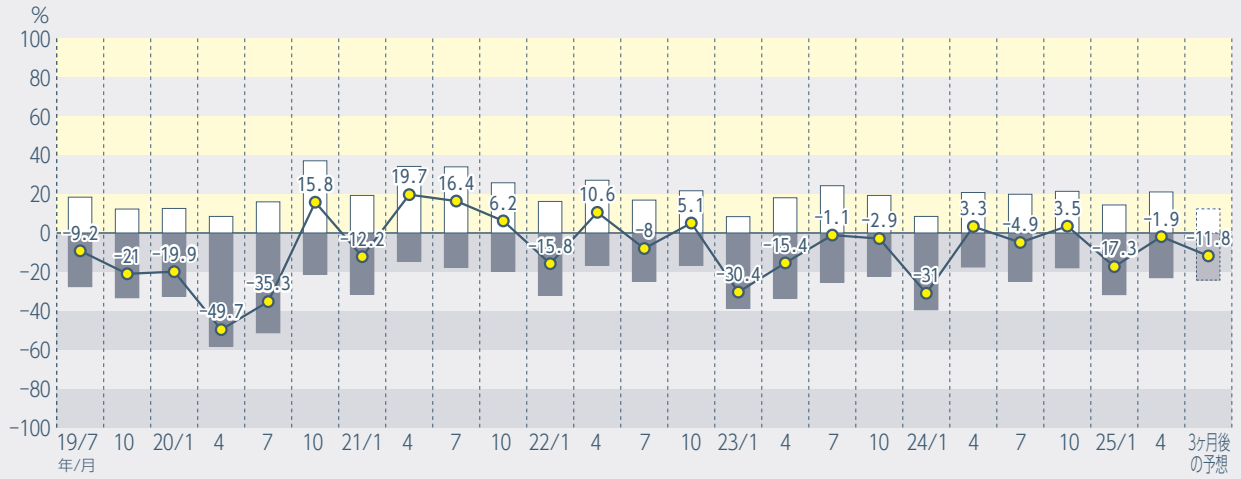
諏訪地方161社のご協力で行った2025年4月の「景気動向調査（DI調査）」は、回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが△1.9で、前回調査時（2025年1月末、以下同）の△17.3から、15.4ポイント改善した。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△9.9で、前回の△13.9からやや改善した。また、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の同DIは11.7で、前回の△23.7から改善した。「3ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が前回の△5.6から△17.8へ悪化し、非製造業も△1.7で前回の6.8から悪化し、回答全社では△11.8（前回△1.2）となった。回答全社で諏訪地方の景況を「低下している」と感じる回答は、3ヵ月前比で50.9%、前年同月比で52.8%、3ヵ月後の予想は41.0%で、いずれも前回より増えている。

2025年4月は、米国トランプ大統領が次々に発した高関税政策に、世界が翻弄された。米国の輸入車に対する追加関税の適用や、貿易相手国への相互関税導入、非関税障壁などを考慮した関税率の上乗せと90日間中止など、目まぐるしい動きが続いた。中国も報復の追加関税を導入し、2大市場の米中は貿易戦争の様相となった。地域企業は、4月時点では総体的に大きな影響は見られないが、計画されていた受注が先送りになるなど、徐々に動きが見え始め、先行きへの警戒感が強まった。

●産業別業況表

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	161	21.1	55.9	23.0	-1.9	161	14.3	53.4	32.3	-18.0	161	12.4	63.4	24.2	-11.8
製造業	101	14.9	60.4	24.8	-9.9	101	14.9	48.5	36.6	-21.7	101	11.9	58.4	29.7	-17.8
非製造業	60	31.7	48.3	20.0	11.7	60	13.3	61.7	25.0	-11.7	60	13.3	71.7	15.0	-1.7
商業	26	30.8	53.8	15.4	15.4	26	15.4	69.2	15.4	0.0	26	7.7	65.4	26.9	-19.2
建設業	21	19.0	47.6	33.3	-14.3	21	4.8	52.4	42.9	-38.1	21	9.5	81.0	9.5	0.0
観光・サービス業	13	53.8	38.5	7.7	46.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7	13	30.8	69.2	0.0	30.8

●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



製造業　業況

3ヵ月前との比較

「好転」企業は前回の17.6%から14.9%へやや減少したが、「悪化」企業が31.5%から24.8%へ減少した。トランプ関税への対応や連休前の前倒し受注があり、4月は自動車部品などが堅調だった。ただ、予定されていた生産が先送りになるなど、先行きに備えた動きも出始めている。

3ヵ月後の予想

「好転」予想の企業は、前回の15.7%から11.9%へやや減少し、「悪化」予想の企業は前回の21.3%から29.7%へ増加した。トランプ関税への警戒で取引先が予定を立てることが難しく、受注確保のめどが立たない企業が増えている。不透明感が強まり、設備投資を控える状態も続いている。

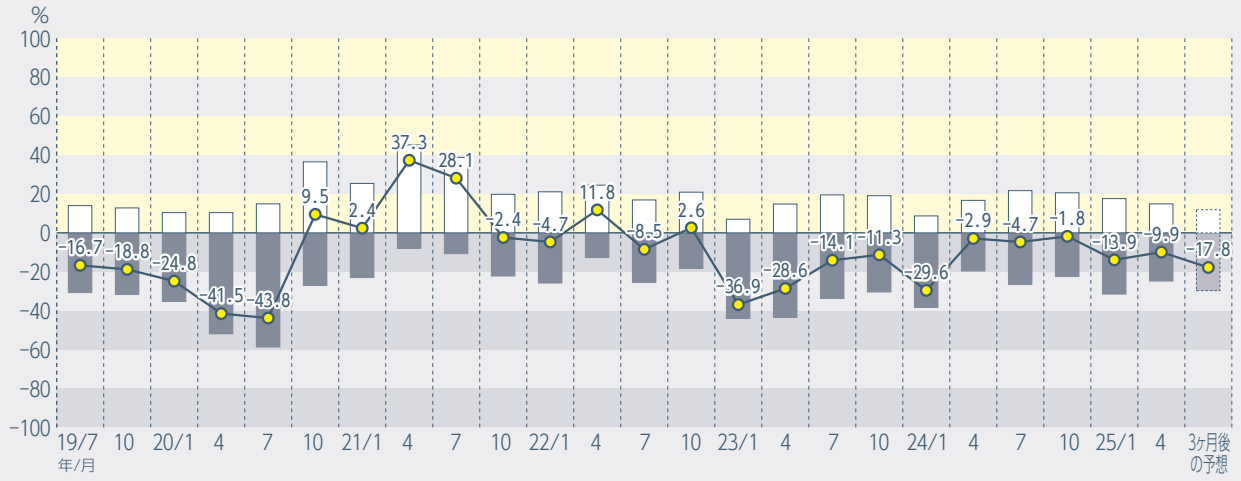
総体的な状況

製造業企業の諏訪地方の景況感は、3ヵ月前に比べて「上昇」がなく（前回0.9%）、「低下」が59.4%（同51.9%）、前年同月比では「上昇」が3.0%（同3.7%）で、「低下」は60.4%（同44.4%）と、多くの企業で停滞感が進んでいる。3ヵ月後の予想も「上昇」が1.0%（同5.6%）で、「低下」が47.5%（同33.3%）と悪化傾向。米国の高関税政策の影響は、3ヵ月前に比べて「多大」または「多少」が59.4%となり、前回の27.8%から増加した。さらに3ヵ月後は89.1%（同64.8%）にのぼる企業が影響を受けると予想している。トランプ関税は、自動車関連をはじめ、多くの業種の関心を集めているが、まだ具体的な自社への影響が分からない段階の企業が多く、先行き不透明感が先行している。

企業のひとこと

- 受注の量産開始が7月の見通しだが、アメリカの関税の影響による景気後退が心配。現時点では大きな落ち込みはないが、今後アメリカの関税がどの程度影響してくるのか現時点では全く読めない。（金属製品製造業）。
- 株価、円高、トランプ関税等はチャンスと捉えている。現に同業者の廃業や倒産が増えてきており、新製品等の試作の話が出てきている（金属製品製造業）。
- 自動車メーカーが在庫調整に入り減産傾向で、協力工場の企業選択に入っている。人手不足解消のため色々試したが、これだけ仕事量の先行きに不安が出てくると採用も慎重になってくる（一般機械製造業）。
- トランプ関税で日本経済や産業活動への影響は避けられない。先行きの見通しが立たず、各ブランドともに慎重な対応で、今請けた仕事をしっかりこなしていくだけ（輸送機械製造業）。
- 為替や市場の動きが全く読めず、経済がどの方向に向いているのかもわからない。世界恐慌へ突入する恐れも感じる。会社の体力を温存しておくしかない（電気機械製造業）。

●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



製造業　受注状況

3ヵ月前との比較

受注状況DIは△15.8で、前回調査時の△17.6からやや改善した。規模別DIは、「1～29人企業」は△28.0で前回の△15.3から悪化した。「30～99人企業」は△13.5で前回の△13.9とほぼ同様だった。「100人以上企業」は21.4で前回の△38.5から改善した。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が△18.5から△7.4と改善したが、「一般機械」は△20.8から△24.0、「輸送用機械」は△18.2から△50.0、「電気機械」は△17.4から△23.9、「精密機械」は9.1から△22.2と悪化した。外注発注量DIは、前回の△18.6から△12.9へやや改善している。

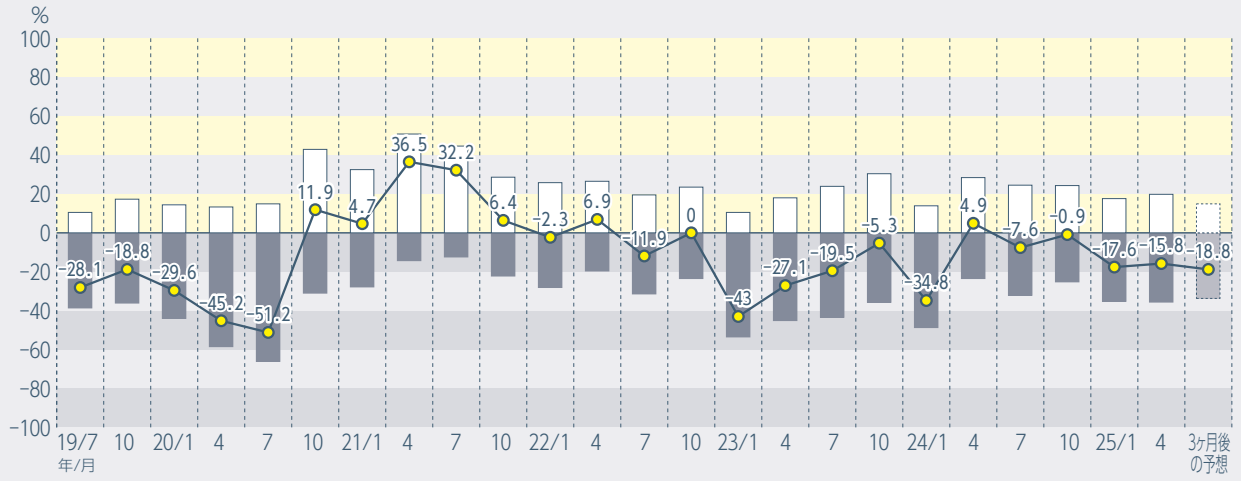
3ヵ月後の予想

製造業全体の受注予想DIは△18.8で、前回の1.8から悪化した。規模別では「1～29人企業」が△24.0で前回の△3.4から悪化した。「30～99人企業」は前回の2.8から△13.5へ悪化し、「100人以上企業」は23.1から△14.3へ悪化した。業種別（主要5業種）では、「一般機械」は△20.8から△12.0へ改善したが、「輸送用機械」が9.1から△60.0、「金属製品」が0.0から△22.2、「電気機械」は0.0から△14.3、「精密機械」は18.2から△22.2へいずれも大幅悪化した。自動車関連をはじめ、米国の高関税政策の影響の出方を注視する企業が多い。

●業種別・規模別受注状況表

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		101	19.8	44.6	35.6	-15.8	101	19.8	41.6	38.6	-18.8	101	14.9	51.5	33.7	-18.8
規模	1～29人	50	20.0	32.0	48.0	-28.0	50	28.0	30.0	42.0	-14.0	50	16.0	44.0	40.0	-24.0
	30～99人	37	13.5	59.5	27.0	-13.5	37	13.5	48.6	37.8	-24.3	37	16.2	54.1	29.7	-13.5
	100人～	14	35.7	50.0	14.3	21.4	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
中分類	金属製品製造業	27	14.8	63.0	22.2	-7.4	27	18.5	66.7	14.8	3.7	27	11.1	55.6	33.3	-22.2
	一般機械製造業	25	16.0	44.0	40.0	-24.0	25	16.0	28.0	56.0	-40.0	25	20.0	48.0	32.0	-12.0
	電気機械器具製造業	21	19.0	38.1	42.9	-23.9	21	14.3	38.1	47.6	-33.3	21	19.0	47.6	33.3	-14.3
	輸送用機械器具製造業	10	10.0	30.0	60.0	-50.0	10	10.0	50.0	40.0	-30.0	10	0.0	40.0	60.0	-60.0
	精密機械器具製造業	9	22.2	33.3	44.4	-22.2	9	33.3	22.2	44.4	-11.1	9	11.1	55.6	33.3	-22.2

●製造業：「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移



商　業

3ヵ月前との比較

業況判断DIは15.4で、前回の△23.1から改善した。来店客数DIが前回の△34.7から△7.7へ改善した。歓迎会などで飲食店の売上が伸びた。商業者が感じる諏訪地方の景況感は、3ヵ月前に比べて「上昇」が3.8%（前回0.0%）で、「低下」が53.8%（同61.5%）で、やや上向いている。

3ヵ月後の予想

業況予想DIは、「悪化」予想の企業が、「好転」予想の企業を上回り、前回の7.7から△19.2へ悪化した。3ヵ月後の諏訪地方の景況感予想は、米国の高関税政策が景気におよぼす影響などから、悪化予想が前回より増えている。来店客数DIは、前回の23.1から△7.7とマイナス水準となった。

■スーパー

米の販売は入荷があれば売れる状態。今後もさらに食料品の値上げが予想され、消費者の買い控えが懸念される。固定客が多い店舗は、比較的物価高騰による来店客数減少への影響が少ない。

■自動車販売

諏訪地方の4月の車庫証明件数は794件で、前年同月比4件、0.5%減少した。

■生花店

年度替わりで生活必需品の消費に回る傾向が強く低調で、ネットでの高級品販売も注文が少なかった。

■飲食店

学校関係の歓送迎会が復活しつつあるが、数回の値上げでご飯ものが受け入れられなくなってきた店舗がある。飲食業界全体では節約志向の高まりで来店客数が減少傾向だが、家族連れや小団体の来店客は堅調。

■家電店

2027年に蛍光管製造が中止となることから、家庭用LED化の反響が出ている。

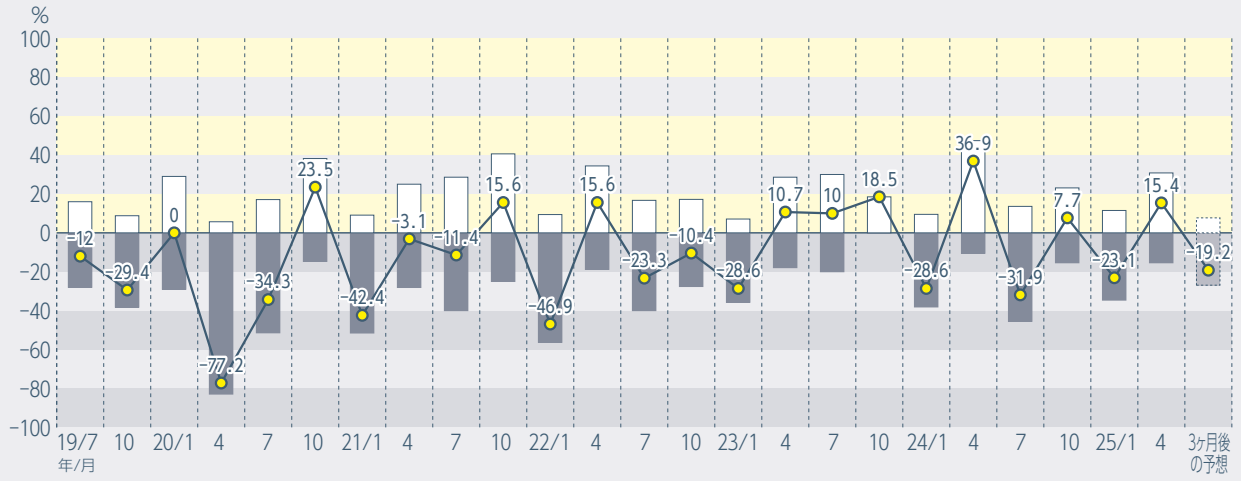
■衣料品店

松本方面の大型店の閉店で顧客が流れ、ブランド品の売上が増加した店舗がある。

企業のひとこと

- ●消費者の財布の紐は固くなっていると感じるが、食料品については極端に節約をしているという感じではない（スーパー）。
- ●米は主食ではなく高級食材化しており、外食産業も新たな形に変化していくかもしれない（飲食店）。
- ●農業が盛んに行われる時期の5～6月は、給油量が毎年安定して見込める（燃料販売）。
- ●4月は歓迎会などの特需で若干売上が増加したが、今後は物価上昇の中での人の行動が気になる。トランプ関税は今後、地方でも仕入れや売上に影響が出てきそう（小売店）。
- ●良いものが高価であることは受け入れられるようになったが、そもそも消費マインドが低くなっており、安価なものでも売れない傾向が出ている（タイヤ販売）。

●商業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



観光・サービス業

前年同期との比較

前回と比べ、業況判断DIが33.3から7.7へ悪化した。宿泊客数DIが前回の16.6から0.0へ悪化した。物価高騰の影響で近隣への旅行が多かったとみられる。諏訪地方の景況感は、「上昇」が7.7%（前回0%）、「低下」は23.1%（同33.3%）で、やや上向きになっている。

3ヵ月後の予想

夏への季節要因で、業況予想DIは悪化予想の企業がなく、前回の33.3から30.8と好調を維持している。客単価DIや宿泊客数DI予想も、前回より上昇している。7月の中央道・諏訪湖スマートICの供用開始で、利便性の向上や観光面を主体とした地域振興が期待されている。

■上諏訪温泉

諏訪湖温泉旅館組合加盟14施設中5施設が前年同月比プラスだった。客室稼働率は75.2%（前年77.0%）。改装で休業中の施設を除くと、ほぼ前年並み。インバウンドは順調だが、県内からの顧客が減少している。5月以降の予約状況も各施設順調で、当面は前年を上回るペースで推移する見通し。

■下諏訪温泉

4月は花見の影響で外国人宿泊者が多かった。平日の宿泊者数が増加している。

■蓼科・白樺湖・富士見高原

GW前半はカレンダーの並びから、前年同月比で若干マイナスとなった施設が多い。夏場の予約が少しずつ入り始め、海の日から8月中旬までは前年と同水準の推移が予想されている。インバウンドは特に目立っていない。

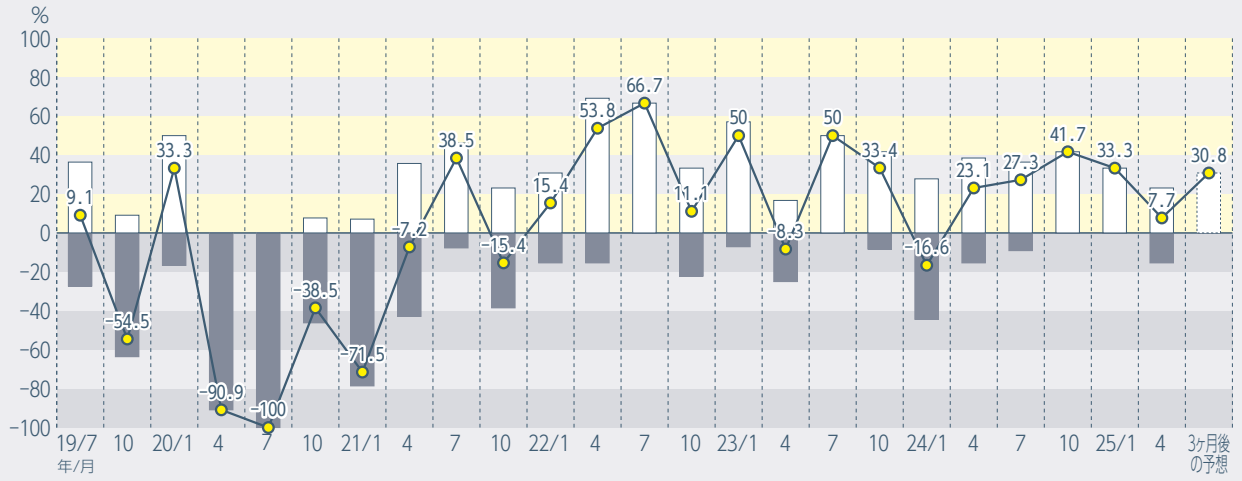
■諏訪大社

上社・下社合わせた4月の参拝者数は、約70,000人だった。前年同月比約6,700人、8.7%減少した。

企業のひとこと

- ●ニュースで言われるように、物価高騰の影響で、近隣での休日を過ごしているように感じた。急なキャンセルによる機会損失をカバーするために、キャンセルチャージを改訂した（宿泊施設）。
- ●今までは客室にエアコンがなくても過ごせたが、昨今の猛暑でいよいよ設置が必要となってくる。昨年は宿泊客からの要望もあった（宿泊施設）。
- ●月初に起きたETC障害の影響や4月後半のゴールデンウィークの飛び石連休の日程が影響し、伸び悩んだ（サービスエリア）。
- ●この時期は本来、県内から黒部ルートへのバス観光が王道だったが、最近はマイカーの観光客が増え、ルートも分散し、迎える観光地側としても受け入れが読めなくなっている（土産物店）。

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移



建設業

3ヵ月前との比較

業況判断DIは「好転」が19.0%、「悪化」が33.3%で△14.3となり、前回の△33.3から改善した。受注状況DIは前回の△47.6から0.0、外注発注量DIは前回の△28.6から△14.3へそれぞれ改善した。諏訪地方の景況感は「上昇」が4.8%、「低下」が19.0%だった。

3ヵ月後の予想

業況判断予想DIは「好転」、「悪化」とも9.5%の0.0で、前回の△9.5から改善した。受注予想DIは前回の19.0から△14.3の悪化となり、受注が減少すると見る企業が増えている。諏訪地方の景況感予想は、前回同様「上昇」がなく、停滞したまま推移すると見る企業が多い。

■3月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は106戸で、前年同月比29戸増加（37.7%）した。持家は9戸増加の62戸、貸家は18戸増加の34戸、分譲は2戸増加の10戸だった。長野県全体は839戸で、前年同月比3.6%増加した。諏訪地方の2024年4月～2025年3月の累計着工戸数は1,134戸で、前年同期比206戸増加（22.2%）した。

■4月の諏訪地方市町村からの受注状況

建築工事4件143百万円、土木・水道工事23件339百万円、その他工事4件57百万円の合計31件539百万円だった。前年同月比で、件数は12件、契約金額は86百万円減少（△13.8%）した。

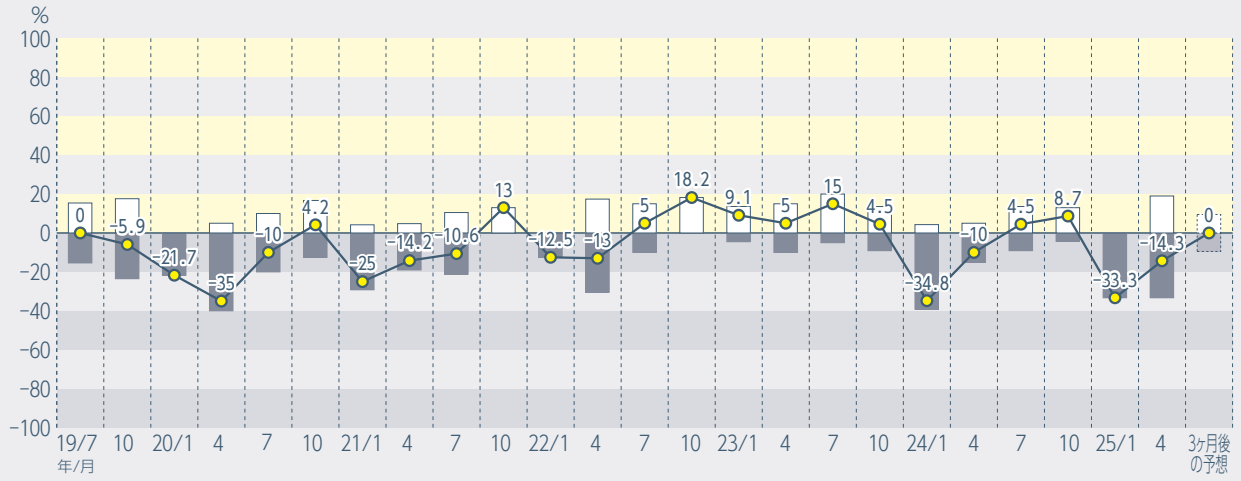
■4月の地元企業が受注した国県関係の公共工事

合計5件468百万円で、前年同月比で件数は2件減少し、契約金額は701百万円減少（59.9%）した。前年同月は諏訪湖周の下水道工事の大型受注があり、今期は大幅減少した。

企業のひとこと

- ●首都圏からの移住希望者を中心にニーズは旺盛であり、当面忙しい状況が続く見通し。
- ●大阪万博に伴い、関西方面の建設部材の受注が一時増加した。
- ●例年4～6月は公共工事が動かず仕事が薄い時期だが、民間の土木・舗装工事を中心に売上が増加した。人手不足もあり多忙になっている。
- ●4月の受注状況はここ数年で最も少なかった。関税の影響もあり景気の先行きが不透明なため、受注が増える要素がなく、今後の業況が不安。新規案件の計画はあるが、先送りになる可能性もある。
- ●諏訪圏域の公共工事の発注状況は低調で、仕事がない同業者が増えてきている。大口の工事は地区外からの参入もあり競争が激化している。

●建設業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



収益性状況

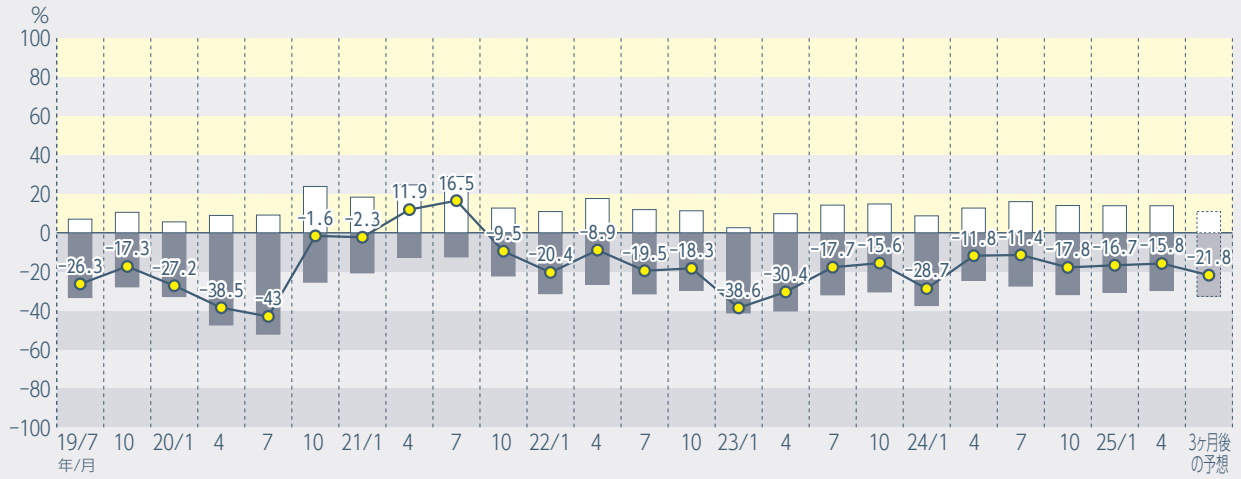
3ヵ月前との比較

回答全社の収益性判断DIは「好転」18.0%、「悪化」29.2%の△11.2で、前回調査時の△18.5からやや改善した。製造業は△15.8で、前回の△16.7からやや改善した。非製造業も「好転」25.0%、「悪化」28.3%の△3.3で、前回の△22.2から改善した。季節要因による観光・サービス業が持ち直している。ただ、多くの企業で、材料やエネルギー高、賃金上昇など収益を圧迫する要因が継続している。

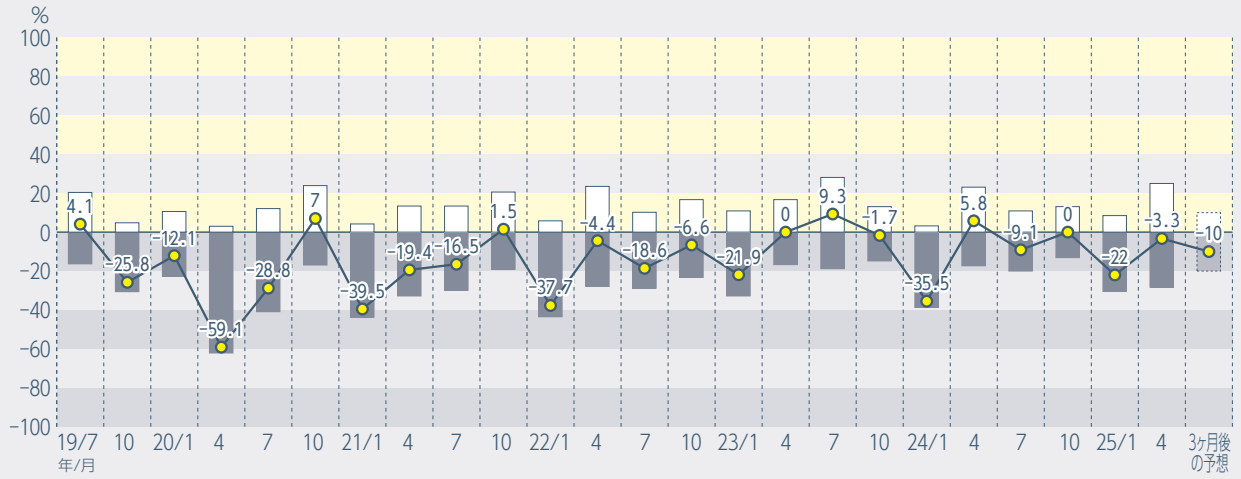
3ヵ月後の予想

回答全社の収益性予想DIは「好転」10.6%、「悪化」28.0%の△17.4で、前回の△5.4から悪化した。製造業は、「悪化」予想が大幅に上回る△21.8で、前回の△10.2から悪化した。非製造業も△10.0で前回の3.4から悪化した。行楽シーズンに向かう観光・サービス業はプラス水準だが、多くの業種でトランプ関税をきっかけとした不確実要素が収益に影響すると見ている。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



雇用状況

2025年3月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.07ポイント下回り、前月を0.05ポイント下回る1.25倍だった。27ヵ月連続で前年同月を下回った。県内は前月比0.01ポイント上昇の1.30倍、全国は前月を0.02ポイント上回る1.26倍だった。全国の完全失業率は、前月比0.1ポイント上昇の2.5%だった。

全国の2024年度平均の有効求人倍率は、前年度を0.04ポイント下回る1.25倍で、2年連続で低下した。企業の人手不足感は強いものの、物価高による原材料費高騰などの影響で求人を控える動きがある。先行きもトランプ関税などの影響で不透明感がある。

諏訪地方は、新規求人数が1,313人で、前年同月比147人減少（△10.1%）した。新規求職者数は745人で、前年同月比21人減少（△2.7%）した。産業別の前年同月比の新規求人数は、「金融・保険・不動産業」が12.9%、「その他サービス業」が10.4%増加し、「製造業」が△2.8%、「卸売業・小売業」が△36.9%減少した。

経営上の課題（3つまでの複数回答）

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業は労働力確保と人件費③建設業は労働力確保と人件費④観光・サービス業は労働力確保と人件費だった。「労働力確保」が依然、多くの業種の課題の上位に上がる一方で、賃金上昇で「人件費」も主な課題となっている。

経営上の課題	合　計	製造業	商　業	建設業	観光・サービス業
売上減少	84	63	10	7	4
単価引下げ	14	10	0	2	2
競争激化	28	14	9	4	1
資金繰り	39	22	6	6	5
人件費	65	36	13	9	7
労働力確保	91	52	15	15	9

諏訪地方主要経済指標

		実　数	前年同期比
有効求人倍率【3月】ハローワーク諏訪管内		1.25倍	△0.07ポイント
国県公共工事【4月】（税抜・地元企業受注分）	件数	5件	△2件
	金額	468百万円	△701百万円
6市町村公共工事受注【4月】（税抜・業務委託除く）	件数	31件	△12件
	金額	539百万円	△86百万円
車庫証明件数【4月】（諏訪地方合計）		794件	△0.5%
新設住宅着工件数【2024年4月～2025年3月（諏訪管内）】		1,134戸	22.2%

2025年4月の状況（企業%）　●自社の業況　●諏訪地方の景況感

●自社の業況

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
全体		161	21.1	55.9	23.0	-1.9	161	14.3	53.4	32.3	-18.0	161	12.4	63.4	24.2	-11.8
製造業		101	14.9	60.4	24.8	-9.9	101	14.9	48.5	36.6	-21.7	101	11.9	58.4	29.7	-17.8
規模	1～29人	50	16.0	54.0	30.0	-14.0	50	20.0	40.0	40.0	-20.0	50	10.0	54.0	36.0	-26.0
	30～99人	37	10.8	67.6	21.6	-10.8	37	13.5	48.6	37.8	-24.3	37	13.5	62.2	24.3	-10.8
	100人～	14	21.4	64.3	14.3	7.1	14	0.0	78.6	21.4	-21.4	14	14.3	64.3	21.4	-7.1
中分類	金属製品製造業	27	22.2	66.7	11.1	11.1	27	14.8	63.0	22.2	-7.4	27	7.4	63.0	29.6	-22.2
	一般機械製造業	25	4.0	64.0	32.0	-28.0	25	12.0	36.0	52.0	-40.0	25	16.0	60.0	24.0	-8.0
	電気機械器具製造業	21	9.5	57.1	33.3	-23.8	21	14.3	52.4	33.3	-19.0	21	19.0	47.6	33.3	-14.3
	輸送用機械器具製造業	10	10.0	50.0	40.0	-30.0	10	0.0	50.0	50.0	-50.0	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
	精密機械器具製造業	9	22.2	55.6	22.2	0.0	9	11.1	44.4	44.4	-33.3	9	11.1	55.6	33.3	-22.2
非製造業		60	31.7	48.3	20.0	11.7	60	13.3	61.7	25.0	-11.7	60	13.3	71.7	15.0	-1.7
商業		26	30.8	53.8	15.4	15.4	26	15.4	69.2	15.4	0.0	26	7.7	65.4	26.9	-19.2
建設業		21	19.0	47.6	33.3	-14.3	21	4.8	52.4	42.9	-38.1	21	9.5	81.0	9.5	0.0
観光・サービス業		13	53.8	38.5	7.7	46.1	13	23.1	61.5	15.4	7.7	13	30.8	69.2	0.0	30.8

●諏訪地方の景況感

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業数	上昇	不変	低下	DI	回答企業数	上昇	不変	低下	DI	回答企業数	上昇	不変	低下	DI
全体		161	1.9	47.2	50.9	-49.0	161	3.1	44.1	52.8	-49.7	161	2.5	56.5	41.0	-38.5
製造業		101	0.0	40.6	59.4	-59.4	101	3.0	36.6	60.4	-57.4	101	1.0	51.5	47.5	-46.5
規模	1～29人	50	0.0	34.0	66.0	-66.0	50	2.0	30.0	68.0	-66.0	50	2.0	52.0	46.0	-44.0
	30～99人	37	0.0	40.5	59.5	-59.5	37	5.4	37.8	56.8	-51.4	37	0.0	48.6	51.4	-51.4
	100人～	14	0.0	64.3	35.7	-35.7	14	0.0	57.1	42.9	-42.9	14	0.0	57.1	42.9	-42.9
中分類	金属製品製造業	27	0.0	40.7	59.3	-59.3	27	0.0	40.7	59.3	-59.3	27	0.0	40.7	59.3	-59.3
	一般機械製造業	25	0.0	44.0	56.0	-56.0	25	4.0	28.0	68.0	-64.0	25	0.0	56.0	44.0	-44.0
	電気機械器具製造業	21	0.0	33.3	66.7	-66.7	21	0.0	42.9	57.1	-57.1	21	4.8	47.6	47.6	-42.8
	輸送用機械器具製造業	10	0.0	50.0	50.0	-50.0	10	0.0	50.0	50.0	-50.0	10	0.0	60.0	40.0	-40.0
	精密機械器具製造業	9	0.0	33.3	66.7	-66.7	9	0.0	22.2	77.8	-77.8	9	0.0	55.6	44.4	-44.4
非製造業		60	5.0	58.3	36.7	-31.7	60	3.3	56.7	40.0	-36.7	60	5.0	65.0	30.0	-25.0
商業		26	3.8	42.3	53.8	-50.0	26	0.0	42.3	57.7	-57.7	26	7.7	46.2	46.2	-38.5
建設業		21	4.8	76.2	19.0	-14.2	21	4.8	66.7	28.6	-23.8	21	0.0	85.7	14.3	-14.3
観光・サービス業		13	7.7	61.5	30.8	-23.1	13	7.7	69.2	23.1	-15.4	13	7.7	69.2	23.1	-15.4

2025年4月の状況（企業%）　●資金繰り　●収益性

●資金繰り

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
全体		161	10.6	72.0	17.4	-6.8	161	8.1	70.2	21.7	-13.6	161	9.3	74.5	16.1	-6.8
製造業		101	7.9	76.2	15.8	-7.9	101	7.9	72.3	19.8	-11.9	101	8.9	72.3	18.8	-9.9
規模	1～29人	50	8.0	68.0	24.0	-16.0	50	12.0	60.0	28.0	-16.0	50	8.0	66.0	26.0	-18.0
	30～99人	37	8.1	83.8	8.1	0.0	37	5.4	81.1	13.5	-8.1	37	10.8	75.7	13.5	-2.7
	100人～	14	7.1	85.7	7.1	0.0	14	0.0	92.9	7.1	-7.1	14	7.1	85.7	7.1	0.0
中分類	金属製品製造業	27	7.4	81.5	11.1	-3.7	27	0.0	92.6	7.4	-7.4	27	3.7	77.8	18.5	-14.8
	一般機械製造業	25	0.0	88.0	12.0	-12.0	25	4.0	68.0	28.0	-24.0	25	12.0	76.0	12.0	0.0
	電気機械器具製造業	21	14.3	71.4	14.3	0.0	21	9.5	71.4	19.0	-9.5	21	9.5	76.2	14.3	-4.8
	輸送用機械器具製造業	10	0.0	60.0	40.0	-40.0	10	10.0	60.0	30.0	-20.0	10	0.0	50.0	50.0	-50.0
	精密機械器具製造業	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	22.2	55.6	22.2	0.0	9	0.0	88.9	11.1	-11.1
非製造業		60	15.0	65.0	20.0	-5.0	60	8.3	66.7	25.0	-16.7	60	10.0	78.3	11.7	-1.7
商業		26	19.2	65.4	15.4	3.8	26	11.5	73.1	15.4	-3.9	26	15.4	73.1	11.5	3.9
建設業		21	4.8	66.7	28.6	-23.8	21	4.8	61.9	33.3	-28.5	21	0.0	90.5	9.5	-9.5
観光・サービス業		13	23.1	61.5	15.4	7.7	13	7.7	61.5	30.8	-23.1	13	15.4	69.2	15.4	0.0

●収益性

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
全体		161	18.0	52.8	29.2	-11.2	161	16.1	49.7	34.2	-18.1	161	10.6	61.5	28.0	-17.4
製造業		101	13.9	56.4	29.7	-15.8	101	15.8	49.5	34.7	-18.9	101	10.9	56.4	32.7	-21.8
規模	1～29人	50	16.0	46.0	38.0	-22.0	50	22.0	38.0	40.0	-18.0	50	8.0	52.0	40.0	-32.0
	30～99人	37	8.1	67.6	24.3	-16.2	37	10.8	59.5	29.7	-18.9	37	16.2	56.8	27.0	-10.8
	100人～	14	21.4	64.3	14.3	7.1	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
中分類	金属製品製造業	27	18.5	59.3	22.2	-3.7	27	3.7	66.7	29.6	-25.9	27	11.1	48.1	40.7	-29.6
	一般機械製造業	25	0.0	68.0	32.0	-32.0	25	20.0	36.0	44.0	-24.0	25	16.0	64.0	20.0	-4.0
	電気機械器具製造業	21	14.3	47.6	38.1	-23.8	21	9.5	57.1	33.3	-23.8	21	4.8	61.9	33.3	-28.5
	輸送用機械器具製造業	10	10.0	40.0	50.0	-40.0	10	20.0	40.0	40.0	-20.0	10	0.0	30.0	70.0	-70.0
	精密機械器具製造業	9	22.2	66.7	11.1	11.1	9	33.3	44.4	22.2	11.1	9	11.1	77.8	11.1	0.0
非製造業		60	25.0	46.7	28.3	-3.3	60	16.7	50.0	33.3	-16.6	60	10.0	70.0	20.0	-10.0
商業		26	23.1	53.8	23.1	0.0	26	19.2	57.7	23.1	-3.9	26	11.5	61.5	26.9	-15.4
建設業		21	19.0	42.9	38.1	-19.1	21	14.3	42.9	42.9	-28.6	21	0.0	81.0	19.0	-19.0
観光・サービス業		13	38.5	38.5	23.1	15.4	13	15.4	46.2	38.5	-23.1	13	23.1	69.2	7.7	15.4

2025年4月の状況（企業%）　●米高関税政策の影響　●労働力（パート含む）

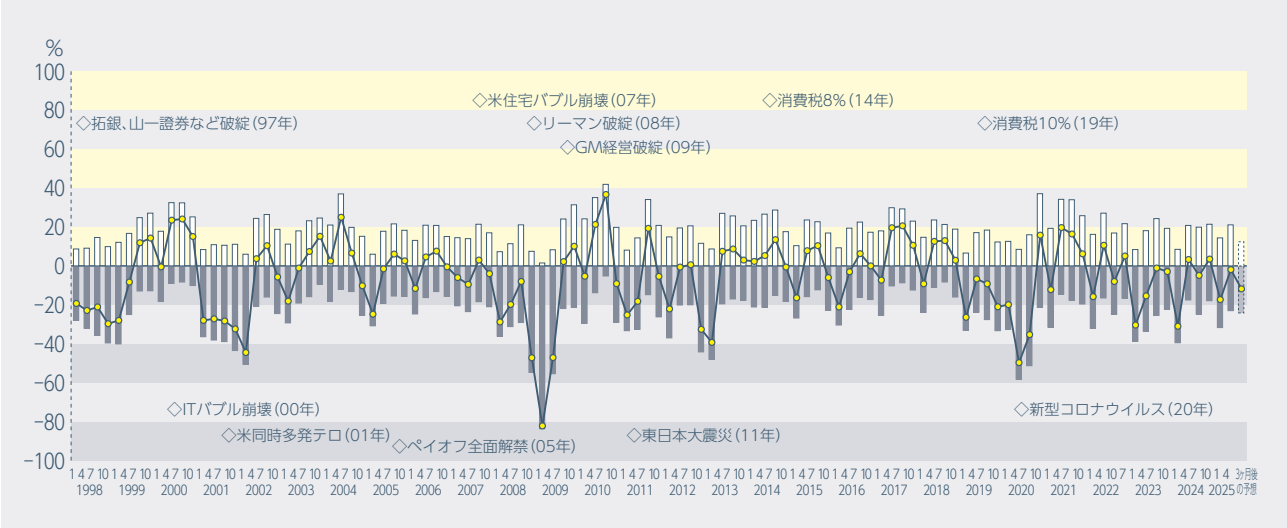
●米高関税政策の影響

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答企業数	多大	多少	なし	回答企業数	多大	多少	なし	回答企業数	多大	多少	なし
全体		161	8.1	45.3	46.6	161	9.9	49.1	41.0	161	15.5	64.0	20.5
製造業		101	9.9	49.5	40.6	101	12.9	51.5	35.6	101	18.8	70.3	10.9
規模	1～29人	50	12.0	50.0	38.0	50	12.0	52.0	36.0	50	16.0	74.0	10.0
	30～99人	37	2.7	54.1	43.2	37	10.8	48.6	40.5	37	21.6	67.6	10.8
	100人～	14	21.4	35.7	42.9	14	21.4	57.1	21.4	14	21.4	64.3	14.3
中分類	金属製品製造業	27	7.4	48.1	44.4	27	7.4	51.9	40.7	27	11.1	81.5	7.4
	一般機械製造業	25	12.0	64.0	24.0	25	20.0	68.0	12.0	25	24.0	72.0	4.0
	電気機械器具製造業	21	9.5	66.7	23.8	21	14.3	61.9	23.8	21	28.6	66.7	4.8
	輸送用機械器具製造業	10	20.0	30.0	50.0	10	20.0	30.0	50.0	10	30.0	40.0	30.0
	精密機械器具製造業	9	11.1	22.2	66.7	9	11.1	22.2	66.7	9	0.0	88.9	11.1
非製造業		60	5.0	38.3	56.7	60	5.0	45.0	50.0	60	10.0	53.3	36.7
商業		26	7.7	38.5	53.8	26	7.7	50.0	42.3	26	15.4	53.8	30.8
建設業		21	4.8	47.6	47.6	21	4.8	47.6	47.6	21	9.5	57.1	33.3
観光・サービス業		13	0.0	23.1	76.9	13	0.0	30.8	69.2	13	0.0	46.2	53.8

●労働力（パート含む）

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業数	増加	不変	減少	DI	回答企業数	増加	不変	減少	DI	回答企業数	増加	不変	減少	DI
全体		161	13.0	72.7	14.3	-1.3	161	17.4	59.6	23.0	-5.6	161	9.3	83.9	6.8	2.5
製造業		101	7.9	78.2	13.9	-6.0	101	12.9	63.4	23.8	-10.9	101	5.0	89.1	5.9	-0.9
規模	1～29人	50	4.0	88.0	8.0	-4.0	50	16.0	70.0	14.0	2.0	50	0.0	94.0	6.0	-6.0
	30～99人	37	8.1	70.3	21.6	-13.5	37	8.1	59.5	32.4	-24.3	37	13.5	78.4	8.1	5.4
	100人～	14	21.4	64.3	14.3	7.1	14	14.3	50.0	35.7	-21.4	14	0.0	100.0	0.0	0.0
中分類	金属製品製造業	27	7.4	77.8	14.8	-7.4	27	14.8	63.0	22.2	-7.4	27	3.7	96.3	0.0	3.7
	一般機械製造業	25	0.0	80.0	20.0	-20.0	25	4.0	68.0	28.0	-24.0	25	4.0	84.0	12.0	-8.0
	電気機械器具製造業	21	14.3	76.2	9.5	4.8	21	9.5	71.4	19.0	-9.5	21	9.5	81.0	9.5	0.0
	輸送用機械器具製造業	10	20.0	70.0	10.0	10.0	10	40.0	40.0	20.0	20.0	10	0.0	90.0	10.0	-10.0
	精密機械器具製造業	9	0.0	77.8	22.2	-22.2	9	11.1	55.6	33.3	-22.2	9	0.0	100.0	0.0	0.0
非製造業		60	21.7	63.3	15.0	6.7	60	25.0	53.3	21.7	3.3	60	16.7	75.0	8.3	8.4
商業		26	15.4	73.1	11.5	3.9	26	19.2	57.7	23.1	-3.9	26	15.4	69.2	15.4	0.0
建設業		21	19.0	57.1	23.8	-4.8	21	19.0	52.4	28.6	-9.6	21	14.3	81.0	4.8	9.5
観光・サービス業		13	38.5	53.8	7.7	30.8	13	46.2	46.2	7.7	38.5	13	23.1	76.9	0.0	23.1

回答全社：業況判断DIの推移（当金庫の調査開始から）



調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

①調査期間　2025年4月。
②調査内容　「2025年4月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
③調査方法　DI調査および約130社のヒアリング調査。
④DI回答数　161企業。
⑤回答率　　64.4%

	製造業	商　業	建 設 業	観光・サービス業	合　計
依　　頼　　数	160	40	30	20	250
回　　答　　数	101	26	21	13	161

Column vol.57

景気後退の米経済と関税交渉の行方

株式会社小宮コンサルタンツ CEO
小宮 一慶 氏

トランプ関税で各国はその対応に追われていますが、その震源の米国経済の雲行きも少し怪しくなってきました。

まず、今年1-3月の米国の実質GDPの速報値がマイナス0.3%と発表されました。これは実に12四半期、つまり3年ぶりのマイナス成長です。それまで、11四半期連続でその前の四半期を乗り越えて拡大していたのですが、久しぶりにマイナスとなったのです。

トランプ大統領は、このマイナス成長は「(前大統領の) バイデン氏の経済政策のせい」と自身の責任を回避していますが、「トランプ関税」とまで言われる関税政策の影響もあります。不安心理が増大していることもありますが、関税が上昇する前の駆け込みで米国の輸入が増えたことも影響しています。GDP計算上は輸入の増加はマイナスに働きます。

そして、このところの2つの指標の悪化が心配されます。ひとつは「消費者信頼感指数」です。これは、コンファランスボードが毎月5000世帯を対象に、景気や雇用情勢などについて消費者に調査した指数です。1985年を100として、毎月の数字を発表しています。米国では、個人消費がGDPの約7割を支えており、個人消費の動向を知る上でとても参考になる指数です。

	消費者信頼感指数(85年=100)	米ISM景気指数(%)
5月	101.3	48.7
6月	97.8	48.5
7月	101.9	46.8
8月	105.6	47.2
9月	99.2	47.2
10月	109.6	46.5
11月	112.8	48.4
12月	109.5	49.2
2025年1月	105.3	50.9
2月	100.1	50.3
3月	93.9	49.0
4月	86.0	48.7
(出所)	コンファレンスボード	ISM

その指数が、表のように今年1月には105.3、2月は100.1だったのが、3月には93.9、4月は86.0と急落しています。今後、個人消費が弱含む可能性を示唆しています。

もうひとつの指標は「米ISM景気指数」です。これは、企業 (製造業) の景況感を表す指数で、50を超えていれば景況感は良化、50を切れば景況感が悪化していることを表します。1月、2月は50を超えていましたが、3月、4月は49.0、48.7とわずかずつですが悪化しています。

つまり、消費者の側からの指数も、企業側からの指数も、3月、4月は悪化しているのです。

一方、消費者物価は4月で前年比2.3%の上昇とかなり落ち着いています。

また、雇用の情勢も、失業率は4月で4.2%と3月と変わらず、絶好調とまでは言えないものの安定しています。

この状況で、米国の政策金利は、現状4.25～4.50%と、消費者物価上昇率と比べれば高く、下げる余地はかなりあります。

実際、トランプ大統領は、FRBのパウエル議長に対し、金利を下げることを強く要請しており、一時は議長の「クビ」発言が出るほどでした。(後日、その発言は取り下げました。)

FRBとしては、関税引き上げによるインフレ率の上昇を読み切れない中での利下げには現状は慎重ですが、景気後退のシグナルが今よりはっきりすれば、躊躇なく政策金利を下げるものと考えられます。

一方、トランプ大統領としてのタイムリミットは来年11月の中間選挙です。中間選挙では、上院議員の3分の1、下院議員全員の入れ替わりが起こりますが、それにより、現在「トリプルレッド」つまり、大統領、上院、下院ともに共和党が優勢な状況が覆るようなことがあれば、今後の政権運営に大きな影響が出ることは必至です。

ですから、中間選挙より少し前までに、「岩盤支持層」である製造業労働者の給与増などに加え、GDPをはじめとする指標が巡航速度となるような、ある程度の「結果」を出す必要があります。

それともう一つの懸念は金融市場です。「相互関税」などの一連のトランプ関税を発表した直後に、米国の金融市場は大揺れとなりました。株安、ドル安、債券安の「トリプル安」です。とくに、トランプ氏は予測していなかったのではないかと思われますが、国債価格が急落し、ウォール街を震撼させました。金融出身のベッセント財務長官らがトランプ氏に進言したと言われていますが、それにより、急遽相互関税の9カ月導入延期が決まるほど、政権も動揺しました。

トランプ政権としては、製造業従事者の給与の底上げ、景気全体の底支え、さらには金融市場の安定を図らなければなりません。そのためには、関税交渉を「早めに」かつ米国に相当有利なように決着する必要があります。

先に、あまり問題のなかった英国との交渉が決着しました。そして中国への「締め付け」も90日の期間ではありますが、かなり緩和しました。米国経済への悪影響が予想以上だからだったと私は考えています。日本もこの状況をうまく活用できるかは交渉力の問題でしょう。

諏訪信用金庫アプリ　ダウンロードはこちら→

スマートフォンから簡単に**新規口座開設**や**残高照会**、**入出金明細の確認**などができます。登録は無料です。

Download on the App Store　GET IT ON Google Play

諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号
TEL　0266-23-4567
FAX 0266-24-4055

ホームページ　Instagram

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
TEL 0266-23-4567